

○町内すべての小中学校に同システムを導入すると年間約126万円の経費が必要で、投資効果など考えるとメリットは少ないと思われます。各学校の主体性に任せています。

【火災など災害時のメール配信】

○現在、火災時などのサイレンは旧町単位でしか鳴らず、旧町外に出ている団員や町民は放送を聞くことができない。

緊急時の連絡方法として、火災に限らず、気象警報や河川氾濫の情報、地震などの情報もメールで配信することが出来る携帯電話への一斉メール配信を提案する。

○実施する場合、費用はいくらくらいか。

狩野総務班長

○現在、団員の出勤要請は、旧町ごとにサイレンを鳴らし、該当する分団が出勤しています。旧町外にいる団員には家族やほかの団員が連絡しています。メール配信は有効な手段の一つと考えます。

ただし、気象警報や河川情報、地震情報などをメール配信する場合は、入手した情報を即座に配信しなければならず、町民のニーズやシステム構築・変更・経費などの問題もあるため、今後大洲広域消防なども含め、総合的に検討し

ていきたいと思えます。

【大久喜鉱山跡地の乱開発問題】

○大久喜鉱山乱開発問題究明に向けての新たな進展はあったか。安全対策の取り組みは進んでいるのか。

狩野総務班長

○町有地を無断で形状変更した松山市の業者とは、問題発生後から何度か交渉の場を持ち、解決に向けて話し合いを行っています。

水路は、すでに開発業者が改修工事を行った箇所もあります。また掘削された町有地の一部は、近期中に復旧工事に着手する予定です。

一方、鉱業権者の昭和KDE(株)とも協議を重ね、現在、排水処理施設である水路改修などを行っています。防災対策の面から町も一部を負担します。改修工事は、昭和KDE(株)と現地調査し、改修範囲を再確認しながら行っています。

今後は、排水路の維持管理や土地問題を含めて、関係者と協議を重ねるとともに、災害の未然防止に努めます。

いきたいと考えています。

◆中本 勇 議員



【町営バスの運行】

○町営バスの運行見直しや民間活用などについてどのような計画を立てているのか伺う。バス運賃の値下げなどを行う考えはないか。

5千万円前後の赤字と聞くが、まちづくりのためには必要な経費だと考える。町の見解はどうか。

狩野総務班長

○町営バスの運行見直しは、内部で民間活用やデマンド方式などの調査検討を行っています。

デマンドバスは、利用者の要望に応じて自宅から希望場所までの移動を低額で提供する、新しい交通システムです。今後、医療機関や社会施設が行っている送迎の実態、町民の需要調査、先進地の視察などを行い、検討委員会やバス審議会などで協議していきます。そのほかにも、運行に必要な車両、運営体系、運営費など多くの

◆中田 厚寛 議員



【大瀬小学校の大規模改修】

○大瀬小学校は、新町建設計画の中で22～23年度に大規模改修の予定となっている。現在、国の補正予算で耐震診断していると聞くが、予定どおり大規模改修を行うのか。

堀本学校教育班長

○大瀬小学校は、昭和45年度と47年度に建築され、すでに38年が経過しています。老朽化も激しく、音楽室やパソコン室などは雨漏り



耐震診断の様子（内子小学校）

している状況です。

内子町では学校施設耐震化計画に基づき、20年度から順に第二次耐震診断を行っています。耐震診断が必要なすべての学校施設などの二次診断を21年度中に完了させ、22年度以降の耐震化工事を進めたいと考えています。

内子町には耐震補強工事が必要とする非木造の校舎が多く、短期間で補強改修工事を行うのは財政的に非常に厳しいです。そのため、大瀬小学校の大規模改修工事を行ってほしいと考えています。ただし、現状を把握し、場合によっては雨漏りだけでも対応していかなければと考えています。

【妊婦健診の公費助成と少子化対策】

○妊婦健診の公費助成に地域格差があると聞くが、どれくらいの差があるのか。内子町では何回分の費用を助成し、一人当たりの金額はいくらか。また国は22年度末までの期限付きで予算化しているが、内子町ではその後の対応をどう考えているのか。

○内子町独自の少子化対策、子育て支援に向けた方策は。

曾根岡地域医療・健康増進班長

○21年4月から、これまで5回

検討課題があり、21年度中に具体的な方向性を見出したいと考えています。

運賃は、17年に上限を600円とし、遠距離利用者への大幅な値下げを行いました。経費削減に努めています。20年度収支決算では4千500万円弱の赤字と、依然として厳しい状況です。現在は11路線、39便を運行しており、年間利用者数は3万3千677人、平均乗車人数は3・6人です。

このような中で、デマンド交通システムの検討を行っています。運賃の値下げや、地域格差がないまちづくりを視野に入れながら、今後検討します。

【福祉バスの運行】

○現在4地域、4路線が運行され



町民の足として11路線、39便の町営バスを運行

ているが、地域によって不便さに違いがある。その点をあらためて調査研究し、見直しを行う必要があると思うが、どう考えるか。

狩野総務班長

○福祉バスは現在、北深・大久保・長田・北表地区の4路線でそれぞれ月2回ずつ運行しています。20年度の利用者数は843人。平均乗車数の内訳は、北深8・0人、大久保12・9人、長田10・8人、北表8・0人です。

現在のところ、地区から新たな路線の要望はありません。しかし高齢者に優しいまちづくりのためにも、利用しやすく、必要性に応じた公共交通手段の再構築を検討していきたいと考えています。

【町職員の資質向上と町民との協働】

○現在、地域によつては消防団の確保に苦慮している。町では、若い職員が入団しない場合はどのように指導しているのか。また地域の環境整備活動などにも参加しない職員がいるが、どのように指導しているのか。

西澤総務課長

○現在、80人の町職員が消防団に入団しています。本人や地域の事情で未加入の職員もいますが、団員不足の際は、ぜひ地元職員に呼